

住民自らが生みだしたバスコミュニティ

住吉台くるくるバス(神戸市)

ナビゲーター
東灘交通市民会議座長、
NPO神戸まちづくり研究所副理事長、
大阪外国語大学教授
森栗 茂一
Shigekazu Morikuri

最頂部に住む約200世帯の住民は、「住吉台くるくるバス」の運行が始まるまで、300段を越える急な階段を上り下りしなくては、最も近いバス停まで行き来することができなかった

地域コミュニティを生みだしたバス運行

高台にある住宅地には、確かに美しい風景やきれいな空気といった都心部にはない魅力があるが、アクセスがない場合には『陸の孤島』と化してしまう。神戸市東灘区住吉台は、その典型的な例で、昭和四〇年代、兵庫県住宅供給公社などが開発した六甲山中腹の高台にある住宅地だが、三〇年以上たった現在、市バスの路線から外れているため移動に不便ということで住民は減少傾向にあり、また急速に高齢化が進んでいた。

そこで、バス運行を望む声が高まったが、バスが運行するために必要な道幅がないなどの理由から、その願いは頓挫。そこで民間業者も加えて、どうかバスが運行できないかと模索し、内閣官房・都市再生本部から認定された全国都市再生モデル調査として、平成一六年二月三月の約四〇日間、地元の





住吉駅前の国道2号線に設けられたバス停では、常に多くの人々が待っている（運賃は大人200円、子ども100円）



夜の住吉台を走る「住吉台くるくるバス」。神戸市の1000万ドルの夜景は美しく、このロケーションに惹かれて住吉台の住民になった人も多いというのがよく分かる



標高が高く狭い道でも「住吉台くるくるバス」は軽快に走る

バスの運転手さんと住民の方は、いつしか顔見知りになり、業者と利用者という枠を越えたコミュニケーションが生まれってきた



少しでも快適な場所にしようと、バス停の周りには自然発生的に手書きのゼブラゾーンが設けられたり、ベンチ、プランターが置かれたりするようになった（写真は県住前バス停）



住吉台くるくるバス

【連絡先】

みなと観光バス株式会社

〒658-0031 神戸市東灘区向洋町東1-4

TEL 078-845-3710

UHL <http://www.kobe-minato.com/kurukuru/>



今回のナビゲーター
森栗茂一氏

NPO法人コミュニティ・サポートセンター神戸がバス実験運行を実施した。
その結果、単なる移動手段だけでなく、高齢者の外出の増加や地域コミュニティ育成への寄与などが確認され、「住民合意による市民の生活交通を再構築する」ことを目的とした、「東灘交通市民会議」が発足。そして今年の一月三日から「住吉台くるくるバス」の運行が実現した。
同会議座長の森栗茂一氏は、高齢者が安心して暮らせ、子どもたちが住み続けることができる町として、自家用車だけに頼らないまちづくりをめざしました」と語る。
成功の最大の要因は、地域住民の盛り上

がり「バス運行に対する粘り強い」市民合意が形成が行われた点。「住民の方々が心から望んだバスだけに、自分たちの手で守り育てようと積極的に行動しています」。
さらに、「バス運行」という一つの目的のために、それまで希薄だった住民間のコミュニティが生まれたばかりでなく、自分たちの住む地域への関心と理解が深まり、地元を良くしようというソーシャル・キャピタルの形成が自然発生的に起ってきているという。まさに、住民発のバスコミュニティの成功例と言えるだろう。

（文責・CEL編集部）